



日本が誇る伝統産業のまち京都

～ 千年を超える京都の手しごとが紡ぐつくり手の技 ～

京都といえば、何業が盛んだと思われるでしょうか？コロナ禍の影響はあれど、やはりインバウンド需要を取り込んだ観光業、宿泊業、飲食業が盛んだと思われる方も多いと思います。京都の産業構造を見てみると、実は京都は、製造業が盛んなまちということが分かります。平成 29 年度京都市の市民経済計算（表 I -1-3）で、市内総生産の業種別構成比で最も高い割合を示しているのは「製造業」の 22.3%であり、これは全国の平均値の 20.7%を超える数値となっています。この製造業の中でも、京都が誇るものといえば「伝統産業」です。

■ 職人のまち京都

日本には様々な「伝統工芸品」がありますが、その中でも「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」に基づき、経済産業大臣が指定したものを「伝統的工芸品」と呼び、全国で 236 品目（令和 3 年 1 月 15 日時点）が指定されています。京都府では 17 品目が指定されており、これは東京都の 18 品目に次いで全国第 2 位の品目数です。また、伝統的工芸品の製造に従事されている技術者のなかから、高度の技術・技法を保持する方を、一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会が「伝統工芸士」として認定しており、全国で 3,932 名、京都府では 935 名が活躍されています（令和 2 年 2 月 25 日時点）。次点の石川県が 404 名ですので、いかに京都に日本の伝統技術の粋が集結しているかということを感じることができます。

このように、京都は日本有数の伝統産業のまちといえますが、西陣織と京友禅の出荷量及び生産量は、生活様式の変化により、減少傾向が続いています（表Ⅱ-3-3-4、Ⅱ-3-3-5）。しかし近年、この状況を打開すべく、多くの職人が新商品開発や海外への販路開拓に取り組まれています。西陣織ではより広い幅で織れる織機が開発され、世界的なブランドの店内装飾等に採用されたり、革に染色を施す技術が開発され、フランスの人間国宝が作る作品に活用されたりと、新たな挑戦が生まれています。

■ 京都伝統産業ミュージアム

京都市では、国が指定している 17 品目を含め、74 品目を伝統産業製品として指定しています。この京都の伝統産業製品を一堂に集め紹介するため、平成 8 年に京都市勧業館みやこめっせの地下 1 階に「京都伝統産業ふれあい館」を開館しました。そして令和 2 年 3 月には、館内を全面リニューアルし、名称も新たに「京都伝統産業ミュージアム」として生まれ変わりました。「京都伝統産業ミュージアム」では、実際に手に取り、本物を体験することができる「自由展示エリア」や、これまでにない切り口で伝統産業と出会える様々な企画展を行う「企画展示室」などを新設し、より多くの皆様に伝統産業の魅力を発信し、伝統産業ファンの裾野を広げ、売上増につなげる取組を進めていきます。是非、お越しいただき伝統産業の魅力を再発見してください。

都道府県別伝統的工芸品認定品目数

都道府県	品目数	割合
東京	18	7.7%
京都	17	7.2%
新潟	16	6.8%
沖縄	16	6.8%
愛知	15	6.4%
全体	236	

都道府県別伝統工芸士認定数

都道府県	人数(人)	割合
京都	935	23.8%
石川	404	10.3%
東京	217	5.5%
愛知	185	4.7%
新潟	174	4.4%
全体	3,932	

出展：日本伝統工芸士会



京都伝統産業ミュージアム